

愛媛県立松山北高等学校 第79回 入学式

式 辞

心地よい春の光と緑が、校舎やグラウンドを優しく包む季節になりました。本日、ご来賓の皆様のご臨席と保護者の皆様のご列席を賜り、令和七年度愛媛県立松山北高等学校入学式が挙行できますことは、在校生並びに教職員一同大きな喜びです。学校を代表して、厚くお礼申し上げます。

ただ今入学を許可しました362名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本校は、明治33年(西暦1900年)、北予中学校として創立されて以来、今年で125年目を迎える県下屈指の伝統校です。卒業生は4万人を超え、現代墨絵画家の茂本ヒデキチ氏や直木賞作家天童荒太氏など、様々な分野で活躍し、大きな功績を残されておられる方々が多数いらっしゃいます。また、昨年、ドラマ「坂の上の雲」が再放送され、秋山好古・真之兄弟の生き様をあらためて見た人も多いかも知れませんが、日露戦争後しばらくして、好古さんは本校第4代校長に就任されます。幕末から明治・大正・昭和と、日本が劇的に成長していく過程で、歴史上何人かのキーパーソンが登場すると思いますが、そのうちの一人が皆さんが入学する北高の基礎を築いた方です。

そのような秋山好古先生の教えが脈々と受け継がれる本校

で、継承されてきた校風は、「質実剛健」と「清楚」です。そこから、「文・武・心」という校訓に繋がっていきます。飾り気がなく、たくましく、清らかなこと。年末年始のサッカー一部の活躍、見てくれました？ カッコよくて、美しかったでしょう？ 飾り気がなく、たくましく、清らかな北高生の姿を、まさに見せてくれました。しかし、サッカー部だけではなく、他にもたくさんいるのです。テレビの中継がある分、どうしても注目されますが、皆さんの先輩たちは、本当に清らかで美しくてカッコよいです。

この春、皆さんと入れ替わりで北高を卒業した生徒のうち 200 名以上が国公立大学に合格しました。また、早稲田大学をはじめとする難関私大にも多く合格しました。在校生には、毎年、スポーツ・文化両面で全国レベルで注目されている人がいます。高みを目指し、切磋琢磨しながら仲間とともに人間力を高め合い、学ぶところが学校です。刺激がいっぱいの北高で、皆さんが日々成長していくことを楽しみにしています。

保護者の皆様、本日、お子様の晴れの姿をご覧になり、あらためて大きな喜びを感じておられることと思います。これまで、お子様の成長を深い愛情と厳しさをもって見守り、支えてこられましたことに、深く敬意を表します。

私は、高校は子離れ親離れの時代だと思っています。実際、在学中に 18 歳になり、法律上大人になっていきます。思い通りにならないこと、苦しいこともあると思いますが、本校職員は、全力でお子様たちを支え、指導し、応援します。数年後に逞しく巣立っていくお子様の姿を目指して、優しく、厳しく、お子様に接して

いただければと思います。

県下屈指の広さを誇る体育館を持つ本校では、毎年全学年がそろって入学式を実施します。その体育館が改修工事中で本日は大変ご不便をおかけしますが、全員がそろって入学式が今年も実施でき、うれしく思います。

合格発表の日、親子でうれし涙を流して抱き合う姿を見て、私は涙が止まらなくなったので、急ぎ校長室に帰りました。一方で、泣き崩れる子の肩を抱かれて帰って行った親子もいたと聞いています。県内屈指の高い倍率を勝ち抜いた皆さんですから、自信を持っていることと思います。しかし、常に謙虚であってほしいし、悔しい思いをした仲間でありライバルたちが他校で頑張ることを忘れないでほしいです。傲慢になった時点で、人としての成長が止まります。謙虚に高校生活を送りましょう。本校の努力目標「心躍る学び合い、一朶の雲を目指して」、我々教職員も含めて、ここにいる全員で成長していきましょう。以上、式辞といたします。

令和7年4月8日

愛媛県立松山北高等学校長 井上 浩